



2012年3月期 決算説明会



マツダ 雄(TAKERI)

マツダ株式会社
2012年4月27日

1

本日の説明内容

- 総括
- 2012年3月期 実績
- 2013年3月期 見通し
- まとめ
- 中長期見通しの達成に向けて

2



総括

3

2012年3月期実績 ハイライト

- ➔ 第4四半期実績
 - 営業利益は156億円を達成。
2月公表通り、全ての利益レベルで黒字化
- ➔ 2012年3月期実績
 - 歴史的円高等の外部環境の悪化などにより、営業損失は387億円、繰延税金資産の取り崩し及び構造改革費用の前倒しなどにより、当期純損失は1,077億円
 - グローバル販売台数は、124万7千台
- ➔ 新型CX-5を主要国に導入。グローバルで高い評価を獲得し、期待を上回るスタート
- ➔ メキシコ、オーストラリア、タイ、インドネシア、マレーシア、チリで過去最高の販売台数またはシェアを獲得
- ➔ SKYACTIV技術は、グローバルで高い評価、既に27もの賞を受賞
- ➔ 公募増資及び劣後特約付ローンの実施により、将来に向けての成長資金を確保、且つ財務基盤も強化

4

2013年3月期見通しハイライト

- ➔ 通期営業利益は300億円、当期純利益は100億円の見通し
- ➔ グローバル販売台数は、新型CX-5の牽引により、全ての主要市場で前年を上回る134万台の見通し
- ➔ 新型CX-5の需要は、当初販売計画16万台を大きく上回り、需要増に対応するため、能力増強を検討
- ➔ フルSKYACTIV搭載車両の第二弾、次期Mazda6/アテンザを今年後半より、グローバルに順次導入
- ➔ ソラーズ社とのロシア現地生産決定
- ➔ AATのトラック生産能力増強を実施
- ➔ 中長期見通し達成に向けて、構造改革プランを着実に実行

5



2012年3月期 実績

6

2012年3月期 財務指標

(億円)	第4四半期		通期		(参考)
	2012年 3月期	対前年 増/(減)	2012年 3月期	対前年 増/(減)	2012年3月期 2月公表
売上高	6,148	70	20,331	(2,926)	20,500
営業利益	156	50	(387)	(625)	(400)
経常利益	213	75	(368)	(737)	(430)
税引前利益	112	138	(553)	(714)	(520)
当期純利益	51	679	(1,077)	(477)	(1,000)
売上高営業利益率	2.5 %	0.8 pts	(1.9) %	(2.9) pts	(2.0) %

7

キャッシュフロー及び純有利子負債

(億円)	2012年3月期			通期
	第3四半期累計	第4四半期	通期	改善/(悪化)
フリーキャッシュフロー	(1,287)	493	(794)	-
現金及び現金同等物	2,369	4,773	4,773	1,545
純有利子負債	5,015	3,008	3,008	694
純有利子負債 自己資本比率	155 %	64 / 53* %	64 / 53* %	22 / 33* pts
自己資本比率	19 %	24 / 26* %	24 / 26* %	0 / 2* pts

* 劣後特約付ローンの資本性考慮後

8

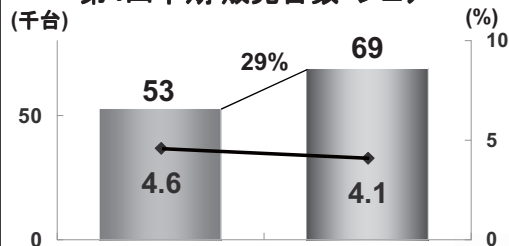
主要データ

	第4四半期		通期		(参考)
	2012年 3月期	対前年 増/(減)	2012年 3月期	対前年 増/(減)	2012年3月期 2月公表
グローバル販売台数(千台)					
日本	69	16	206	0	206
北米	106	21	372	30	370
内 米国	82	18	268	30	266
欧州	54	(3)	183	(29)	182
中国	58	8	223	(13)	236
その他市場	69	(2)	263	(14)	256
合計	356	40	1,247	(26)	1,250
為替レート					
US\$ / 円	79	(3)	79	(7)	78
€ / 円	104	(9)	109	(4)	108

9

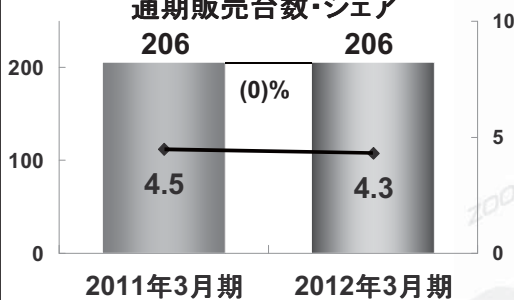
日本

第4四半期 販売台数・シェア



新型CX-5「XD L Package」

通期販売台数・シェア

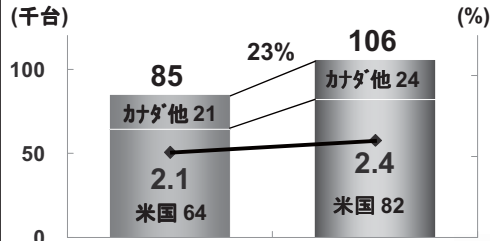


- 第4四半期は6万9千台
デミオ、アクセラ、新型CX-5が牽引
- 通期は20万6千台
SKYACTIV搭載 新型デミオが好調
SKYACTIV搭載車の正価販売を徹底
- 新型CX-5は、4月23日時点で
約1万6千台の受注を獲得するなど
好調な滑り出し
(月間販売目標は1千台)

10

北米

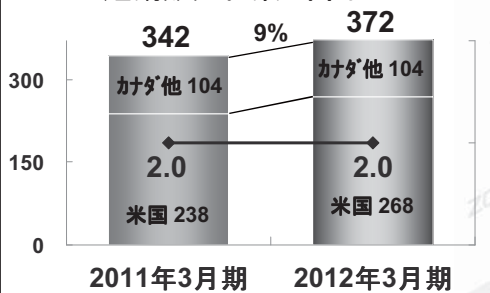
第4四半期 販売台数・米国シェア



新型 Mazda3
(SKYACTIV搭載)

→ 第4四半期は10万6千台
SKYACTIV搭載の新型Mazda3が牽引

通期販売台数・米国シェア



→ 通期は37万2千台
Mazda2及びSKYACTIV搭載の新型
Mazda3が牽引

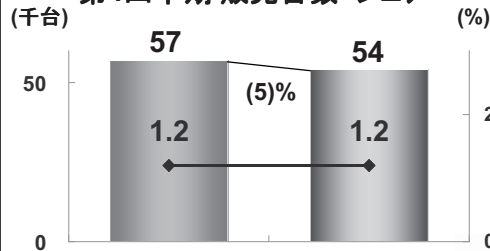
→ 米国: 通期で前年比12%増の26万8千台
ブランド価値向上の施策を継続
シェアは4Qで拡大。通期では維持

→ メキシコ: 引き続き、好調を維持
2期連続で過去最高の販売台数を達成、
またシェアも過去最高を継続

11

欧州

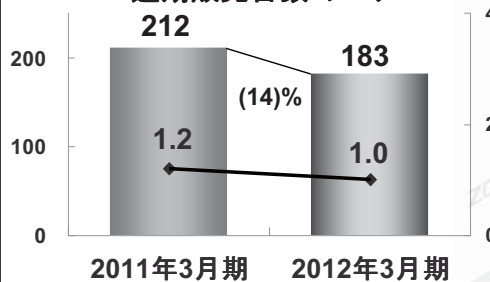
第4四半期 販売台数・シェア



新型 CX-5 (欧州仕様)

→ 第4四半期は5万4千台
新型CX-5を導入。主要国で
約7千台を販売

通期販売台数・シェア

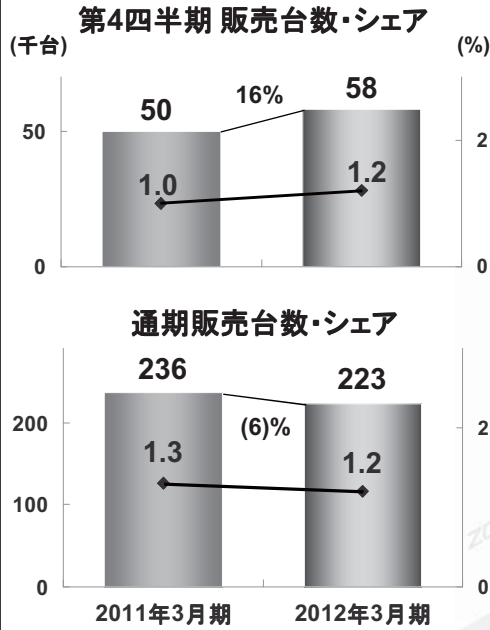


→ 通期は18万3千台
経済危機の影響及び主要国の
競争が激化

→ ロシアは需要回復
通期で前年比50%増の4万4千台

12

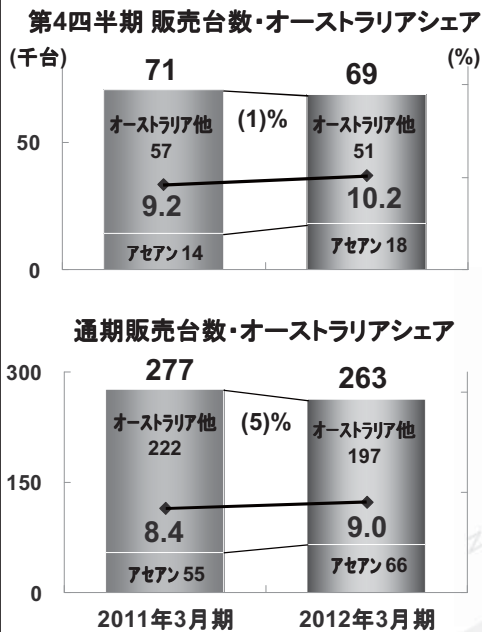
中国



- ▶ 第4四半期は5万8千台
過去最高の販売台数
現地生産の新型Mazda3セダンと
5ドアハッチバック導入効果
- ▶ 通期は22万3千台
競争の激化及び小型車需要減の
影響
- ▶ 販売網拡大は、昨年3月末の312
店舗から59店舗増の、371店舗と
着実に進展

13

その他市場



- ▶ 通期は、26万3千台
タイの洪水影響などによる台数減
- ▶ オーストラリア:
通期で前年比6%増の9万2千台
過去最高の販売台数とシェアを獲得
- ▶ アセアン:
通期で前年比20%増の6万6千台
タイ、インドネシア、マレーシアでは過去
最高の販売台数またはシェアを達成
- ▶ タイに新型BT-50を導入

14

新型CX-5の販売状況及び評価 - 期待を上回るスタート(1)

➡ 概況

- ・ 16万台のグローバル販売目標に対して、想定を大きく上回る受注を獲得。導入を開始した初期の受注状況としては、主要6ヶ国合計で計画の2倍以上のペース
- ・ 今後、アセアン、中国、他各国へ順次導入を行う

➡ 主要国別販売状況

日本:

- ・ 4月23日時点で、当初計画の年間販売計画1万2千台を上回る約1万6千台の受注を獲得
- ・ 受注台数に占めるディーゼルエンジン搭載車(次世代自動車)比率は約80%(当初目標50%)

欧州:

- ・ ロシアは、1万2千台の年間販売計画の60%に相当する7千5百台の累計受注
- ・ ドイツは宣伝開始前にも関わらず、計画比3倍、1万台の年間計画台数の50%に相当する5千台の累計受注に到達

米国:

- ・ 米国も、販売開始後の2月、3月は、宣伝開始前にも関わらず当初計画の1千2百台を大きく上回る4千台の販売を記録。宣伝開始後の4月からはWEBなどへのアクセスが急上昇

15

新型CX-5の販売状況及び評価 - 期待を上回るスタート(2)

➡ 外部からの評価

米国:

- ・ 米国の主要Web誌 Autobyte!で、“2012 Crossover of the Year”を受賞
- ・ シカゴオートショーにて、MotorWeekによる“Drivers’ Choice Award”を受賞
- ・ セグメントトップの残価水準
- ・ IIHS(米国道路安全保険協会)によるTop Safety Pick(衝突安全最高評価)認定

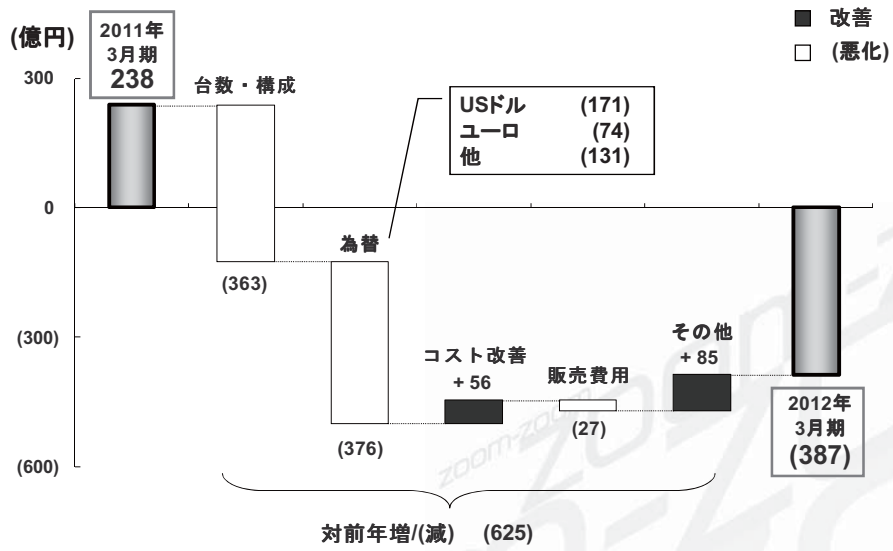
ドイツ:

- ・ ドイツの有力自動車誌 Auto Bildで、SUVディーゼルモデルとしてトップレベルの評価を獲得

16

営業利益変動

2012年3月期 通期 対前年比較



17



2013年3月期 見通し

18

2013年3月期 財務指標

(億円)	2013年3月期			2012年 3月期	通期 増/(減)
	上期	下期	通期	通期	
売上高	10,400	11,600	22,000	20,331	1,669
営業利益	100	200	300	(387)	687
経常利益	(20)	170	150	(368)	518
税引前利益	20	150	170	(553)	723
当期純利益	50	50	100	(1,077)	1,177
売上高営業利益率	1.0 %	1.7 %	1.4 %	(1.9) %	3.3 pts

19

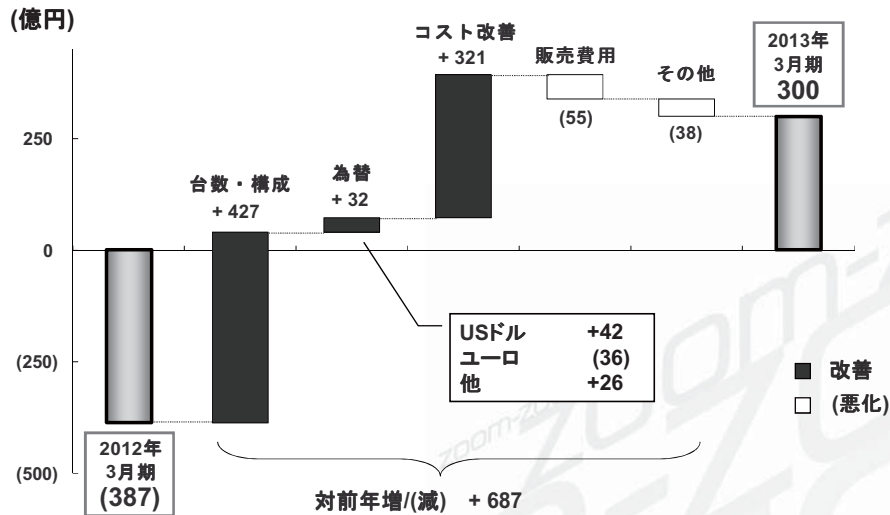
主要データ

	2013年3月期			2012年 3月期	通期 増/(減)
	上期	下期	通期	通期	
グローバル販売台数 (千台)					
日本	117	108	225	206	19
北米	193	197	390	372	18
内 米国	136	149	285	268	17
欧州	95	90	185	183	2
中国	122	133	255	223	32
その他市場	143	142	285	263	22
合計	670	670	1,340	1,247	93
為替レート					
US\$ / 円	80	80	80	79	1
€ / 円	105	105	105	109	(4)

20

営業利益変動

2013年3月期 通期 対前年比較



21

2013年3月期の取り組み - 地域別販売取り組み (1)

日本

- 販売好調の新型CX-5や、新基準エコカー税制で免税ランクを獲得したSKYACTIV搭載の新型デミオを主体に、SKYACTIV搭載車種の拡販
- エコカー補助金/減税効果を最大限活用し、上期に大きな拡販機会を追求
- 新型CX-5に加え、年内導入予定の次期アテンザによる、SKYACTIV搭載車種の更なる拡販
- SKYACTIV技術体感イベントの開催、SNS*戦略の構築などPR戦略の強化

北米

- 新型CX-5、SKYACTIV搭載の新型Mazda3を主体とした販売拡大
- SKYACTIV搭載車の正価販売によるブランド価値向上

* ソーシャルネットワーキングサービス

22

2013年3月期の取り組み - 地域別販売取り組み (2)

➔ 欧州

- ・ 欧州初のSKYACTIV搭載モデルとなる新型CX-5導入を機に、次期Mazda6導入に向けて、SKYACTIV技術の本格的な訴求を開始
- ・ 販売モメンタムを追求するとともに、残価の改善活動とあわせ、確実な利益貢献を図る

➔ 中国

- ・ 既存車種への商品対策及び積極的な販促施策の実施による拡販
- ・ 新型Mazda3の更なる拡販に加え、中国初のSKYACTIV搭載モデルとなる新型CX-5導入による台数上乘せ
- ・ 内陸部、沿岸部空白地域への出店を加速し、販売網の更なる拡大を推進(2012年末までに420店舗へ)

➔ その他市場

- ・ 新興国などでの着実な台数成長を主体に、台数・収益的な柱となる市場への飛躍を図る
- ・ オーストラリア及びタイを中心としたアセアンでの成長に向け販売機会を追求

23

2013年3月期の取り組み - 構造改革プランの進捗 (1)

➔ SKYACTIVによるビジネス革新

- 前期導入の国内向け新型デミオ、新型Mazda3は高い市場評価をいただき、ブランド価値は大幅に向上
- 今期は、高評価のフルSKYACTIV搭載の新型CX-5、次期Mazda6/アテンザを中心とした主要市場での販売拡大により、台数・構成は大幅改善
- フルSKYACTIV搭載第二弾の次期Mazda6/アテンザ導入に向けての活動は順調に進捗

➔ モノ造り革新による更なるコスト改善の加速

- 「モノ造り革新」対象モデルの新型CX-5、次期Mazda6の拡販によるコスト改善効果の最大化
- お取引先様と一体となった、VE/VA*活動強化による更なるコスト改善
- グローバル最適調達、外貨建て調達拡大活動の推進による為替変動への耐性強化

* Value Engineering / Value Analysis

24

2013年3月期の取り組み - 構造改革プランの進捗 (2)

- ➔ アライアンスの加速及び新興国事業強化
 - ソラーズ社とのロシア現地生産決定
 - メキシコ工場の建設は順調に進展
 - AATの能力増強実施など、アセアンでの取り組みを加速
- ➔ 事業再構築の確実な実施と自動車事業への集中
 - Mazda6の日本への生産移管による、AAIの固定費改善
 - 欧州での販売ネットワーク及び欧米子会社の効率化
 - トーヨーエイテック株式の過半数を売却
 - 固定資産の売却

25

ロシアでの合併生産

<概要>

ロシア ウラジオストク市にて、ソラーズ社と生産
合併会社設立の契約を締結

生産概要

- ➔ 稼動時期…… 2012年秋
- ➔ 生産能力…… スタート時 5万台、安定期 7万台
- ➔ 生産車種…… 新型CX-5及び次期Mazda6
- ➔ 供給地域…… ロシア国内
- ➔ 本社所在地… ウラジオストク市

26

まとめ

➡ 2012年3月期 実績

- 第3四半期をボトムとして、台数増及びコスト改善効果により、第4四半期は全ての利益レベルで黒字化を達成
- 通期営業損失は387億円、当期純損失は1,077億円
- 新型CX-5は、グローバルで好調なスタート
- アセアンなど新興国を中心に、過去最高の販売台数またはシェアを獲得するなど、販売好調を継続

➡ 2013年3月期 見通し

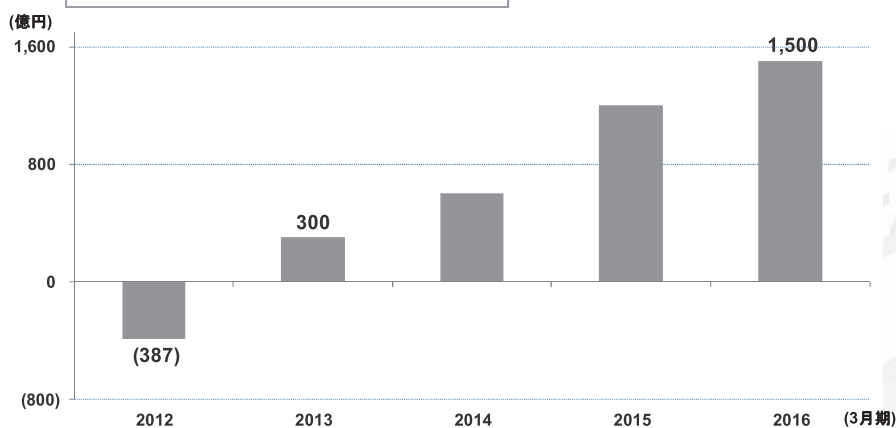
- 営業利益300億円、当期純利益100億円。全ての利益レベルで黒字の見通し
- グローバル販売台数は134万台。主要地域で、前年を上回る販売見込み
- フルSKYACTIV搭載の新型CX-5は、高い評価を獲得。フルSKYACTIV搭載第二弾の次期Mazda6/アテンザとの2車種で販売を牽引
- 構造改革プランで掲げた施策を着実に実行

27

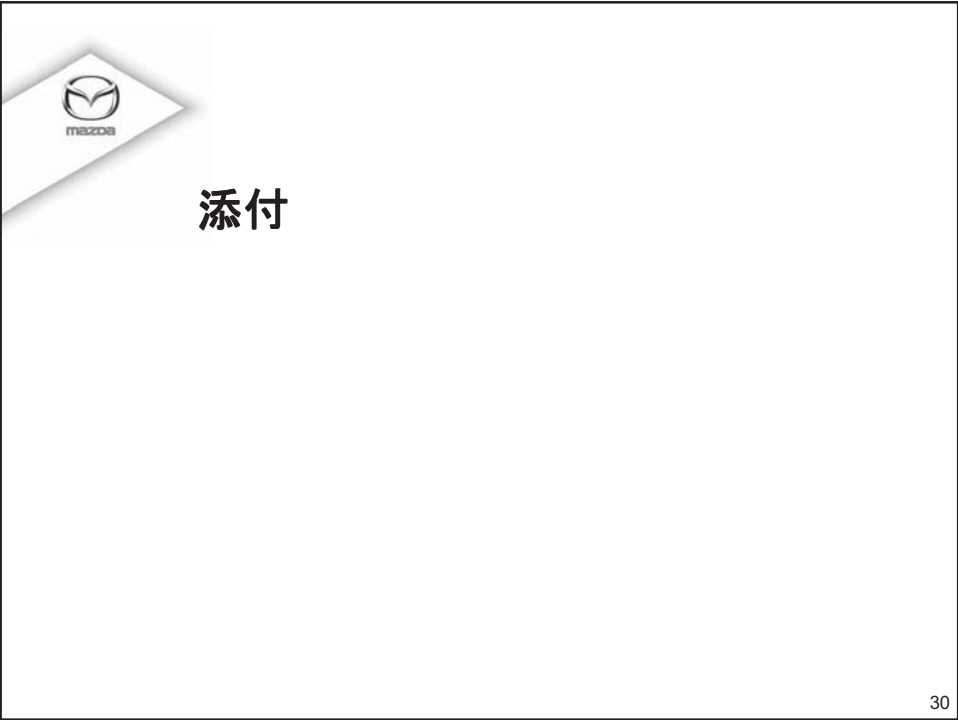
中長期見通しの達成に向けて順調に進展

構造改革プラン

- ① SKYACTIVによるビジネス革新
- ② モノ造り革新による更なるコスト改善の加速
- ③ 新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築
- ④ グローバルアライアンスの推進



28



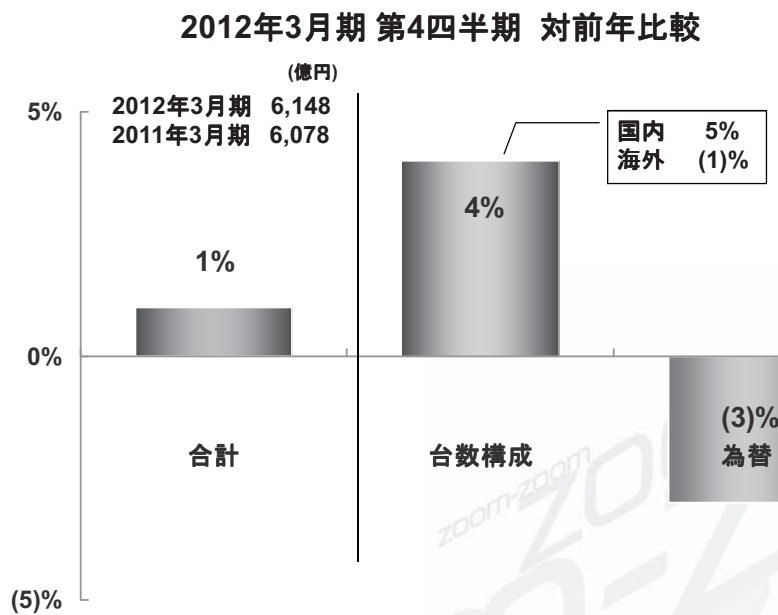
主要データ

	第4四半期		
	2012年 3月期	2011年 3月期	増/(減)
連結出荷台数 (千台)			
日本	71	51	20
北米	118	89	29
欧州	60	62	(2)
中国	1	4	(3)
その他市場	65	84 *	(19)
合計	315	290	25

* 2011年3月期の連結出荷台数は、決算期を変更した海外子会社の15ヶ月決算の影響分1万6千台を含む

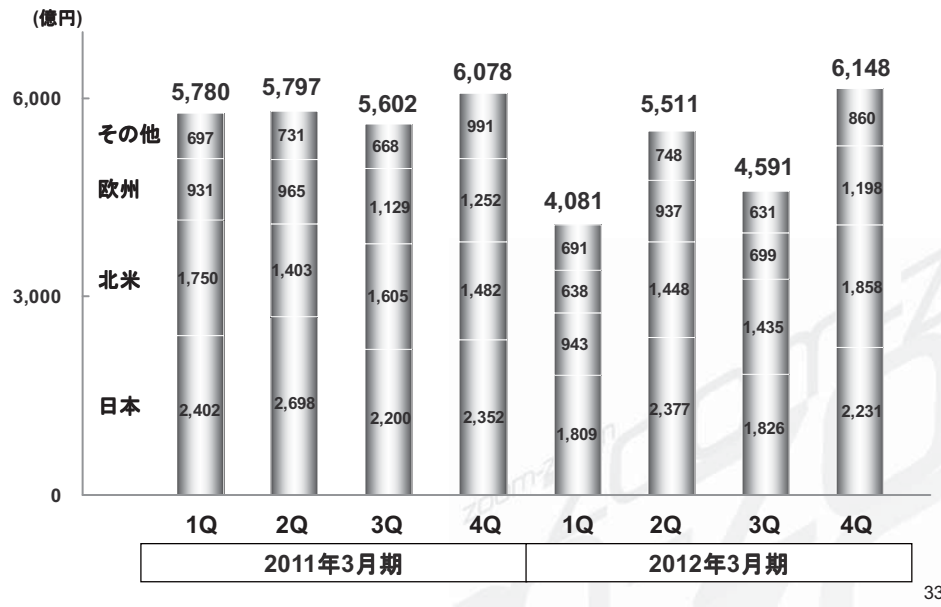
31

売上高変動内訳



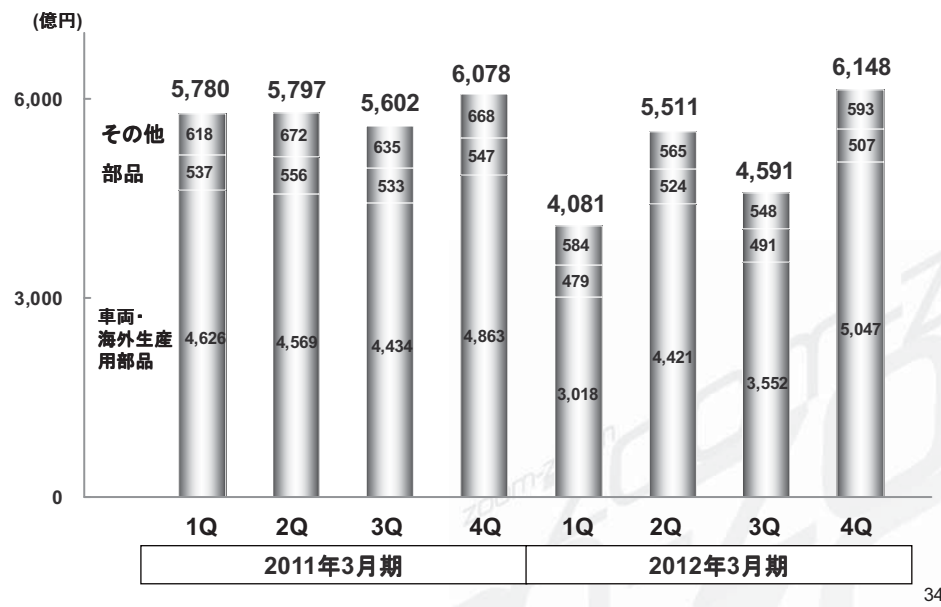
32

売上高 所在地別



33

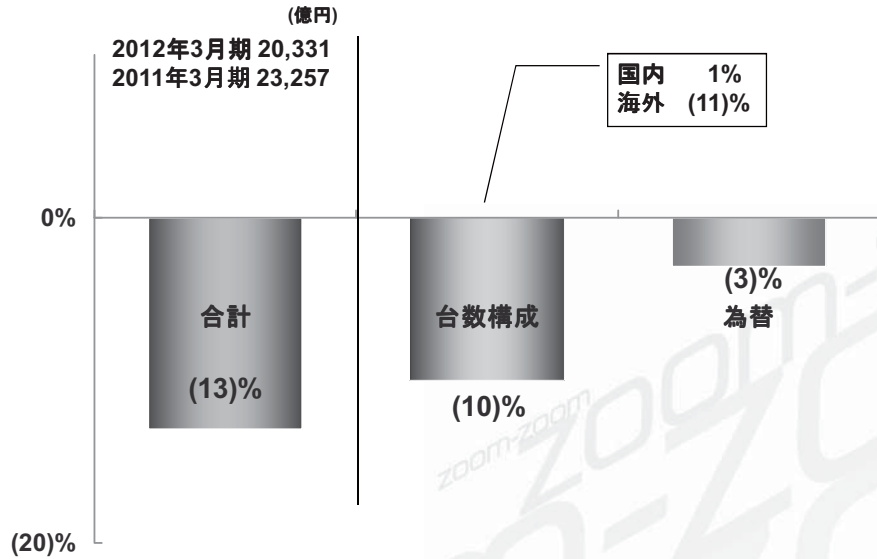
売上高 製品別



34

売上高変動内訳

2012年3月期 通期 対前年比較



主要データ

	2012年3月期			対前年 増/(減)			(参考)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	2012年3月期 2月公表
グローバル販売台数 (千台)							
日本	95	111	206	(30)	30	0	206
北米	182	190	372	5	25	30	370
欧州	91	92	183	(17)	(12)	(29)	182
中国	107	116	223	(5)	(8)	(13)	236
その他市場	129	134	263	(8)	(6)	(14)	256
合計	604	643	1,247	(55)	29	(26)	1,250
連結出荷台数 (千台)							
日本	109	117	226	(16)	36	20	225
北米	152	210	362	(29)	24	(5)	362
欧州	74	97	171	(16)	(21)	(37)	173
中国	8	2	10	(4)	(6)	(10)	10
その他市場	127	120	247	(15)	(37)	(52)*	250
合計	470	546	1,016	(80)	(4)	(84)	1,020
為替レート							
US\$ / 円	80	78	79	(9)	(4)	(7)	78
€ / 円	114	104	109	0	(8)	(4)	108

* 2011年3月期の連結出荷台数は、決算期を変更した海外子会社の15ヶ月決算の影響分1万6千台を含む 36

主要データ

	2013年3月期			対前年 増/(減)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
グローバル販売台数 (千台)						
日本	117	108	225	22	(3)	19
北米	193	197	390	11	7	18
欧州	95	90	185	4	(2)	2
中国	122	133	255	15	17	32
その他市場	143	142	285	14	8	22
合計	670	670	1,340	66	27	93
連結出荷台数 (千台)						
日本	123	114	237	14	(3)	11
北米	176	216	392	24	6	30
欧州	72	99	171	(2)	2	0
中国	7	11	18	(1)	9	8
その他市場	139	133	272	12	13	25
合計	517	573	1,090	47	27	74
為替レート						
US\$ / 円	80	80	80	0	2	1
€ / 円	105	105	105	(9)	1	(4)

37

主要データ



38

公募増資及び劣後特約付ローン

<概要>

・調達金額	1,442億円
・発行価格	@124円
・払込金額	@118.88円
・公募株数	1,219百万株
・増資後発行済株式数	2,999百万株

劣後ローン 700億円含む
調達額は 2,142億円

<増資後の財務指標>

	(2011年12月末)		(2012年3月末)
・自己資本比率	19%	⇒	24% 26%*
・純有利子負債自己資本比率	155%	⇒	64% 53%*
・一株当たり自己資本	183円	⇒	157円

*劣後特約付ローンの資本性考慮後

39

将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の見通し及び将来の戦略については、今後の世界経済情勢、業界の動向、為替変動のリスクなど様々な不確定要素が含まれております。従いまして、実際の当社業績は見通しと大きく異なる結果となる場合があることをあらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。当プレゼンテーション資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。

40